

市政課題検証

公共施設の見直し

太陽が照りつける屋外プールに、水遊びに興じる子供たちの歓声が響く。プールサイドでは日光浴する大人たちの姿も。8月上旬の日曜日、上松の城山市民プールは休日を楽しむ家族連れらでにぎわっていた。

男性(67)は、長野市が今年4月に決定した市民プールの再編計画で、城山が20(令和2)年度以降の廃止候補に挙がっていると聞いて顔を曇らせた。

市は、市有施設の長寿命化や統廃合といった具体的な方針を示す「個別施設計画」で、市民プールの再編計画を決めた。市内に九つある屋外市民プールについては利用者数や運

営コスト、改修費用の見直しなどを踏まえ、この夏で鬼無里と信州新町、芹田、茶臼山の4施設を廃止。城山と、上野にある北部は城山公園一帯の再整備と合わせて検討し、20年度以降にどちらか一方を廃止する方針を示した。

男性は計画を知らなかったといい、「市は施設をなくすより、もっと利用してもらう努力をすべきでは」と不満を漏らした。

城山と共に廃止候補に挙がる北部は、市が15(平成27)年にも廃止して跡地に市立單月保育園を移転する計画を示したが、地元住民らの反対を受けて翌年

に撤回した経緯がある。地元の若槻地区住民自治協議会の関係者

本格再編へ計画策定 市民目線での議論重要

2020年度以降の存廃が検討される
城山市民プール



用が総額5858億円(18年度に約4千億円に増大)に上るとの試算がある。市は15年に公共施設マネジメント指針を作り、今後20年間で市有施設の延べ床面積を20%削減する目標を定めた。指針に基づき、学校教育施設や生涯学習・文化施設など施設ごとの個別施設計画を20年度までに策定。同年度以降、本格的に統廃合を始める方針だ。

老朽化に伴う維持管理費の増大、人口減少による利用減や財源難といった状況を考えると、公共施設の再編は避けては通れない問題だ。実際、市議会からも反対の声は聞こえてくる。

ある現職は「地域のよりどころとなる学校の統廃合は特に大きな課題となるだろう」と話す。

市公共施設適正化検討委員で、さくら都市総合研究所川南県町Ⅱ主席研究員の清水秀幸さんは「行政が市民の目線に立ち、市民と議論していくことが重要だ」と強調。市議に対しては「市民の声を市政に反映していくことはもちろん、長野市の現状を正確に住民に伝えていくことも大切」と指摘している。

は「改めて廃止となれば、また反対の声が上がるかもしれない」と

心配する。

市が再編計画を決めた背景には、13年作成

の市公共施設白書で、今後40年間に必要な公

共施設の改修・更新費

も反対の声は聞こえて